

CONTENTS

地域会だより 1

連載【隔月 全6回】建築界隈のためのアーカイブズ
第4回 建築アーカイブズとコミュニティ② 2
藤本 貴子連載【不定期】アジア4都市の超高層住宅
第4回 -「北京-経済発展の中の商品化」- 4
高井 宏之TOPIC
大会から始まる若手建築家ネットワーク 5
浅井 裕雄自作自演 269
WEBサイトについて 6
渡辺 隆稜線で思考を研ぐ 6
犬飼 高嘉

2026年度 役員選挙報告 東海支部 愛知地域会 7

保存情報 第289回
普門寺本堂 ほか6件 8
鈴木 利明編集後記 8
塩田 哲也・東福 大輔

第57回中部建築賞の入賞・入選・特別賞作品決定 9

JIA に入会して 正会員

早野 将志 (JIA 岐阜)
株式会社早野将志建築設計事務所

建築を通して人の暮らしや社会に長く寄り添う仕事がしたいと考え、JIAに入会しました。まだ経験は浅いですが、先輩方の多様な知見や実践に触れながら、一つ一つの計画に真摯に向き合っていきたいと思います。地域性や環境への配慮はもちろん、使う人の想いを丁寧に汲み取れる建築を目指し、日々学び続けていきます。誠実に成長していきたいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

地域会だより 今後の予定

■JIA東海支部

- ・2/2 支部大会(静岡in伊豆の国)
- ・2/20 支部役員会

■JIA静岡地域会

- ・2/20 第9回役員会

■JIA愛知地域会

- ・2/19 文化財ドクター派遣能登震災報告会 会場:支部会議室
- ・2/25 猪高小学校建築教室
- ・2/27 第9回役員会
- ・2/27 賛助会CPD研修会 会場:支部会議室

■JIA岐阜地域会

- ・2/7 JIAの窓2 講演会「田井幹夫 氏」
- ・2/17 第10回役員会

■JIA三重地域会

- ・2/6 第6回例会、会員研修会
(森岡茂夫氏「JIA地域会活動の今後について〜行政との関わりと防災活動」)
- 第7回役員会、懇親会

Bulletin Board

木造仮設住宅デザイン提案大競技会2025 最終結果

岡崎市長賞	住み慣れた地域の近くで / 川津 悠嗣
西三河林材団体連合会賞	Bond Flame / Uni Design
北川啓介賞	ちゃっとい / 内山知紀・小林日向
高野洋平賞	ほそながい線のようないえ / 山田 寛
清水秀丸賞	Well-being - 木造仮設住宅 - / YMHY

[JIA東海後援] CPD単位:1日目2単位、2日目4単位

世界劇場会議フォーラム2026 inたけとよ

テーマ「劇場100年時代は来るのかPart3 ~劇場再生 ヒトとモノ~」

■開催期間/2026年2月26日(木)~27日(金)

■会場/武豊町民会館ゆめたろうプラザ(愛知県知多郡武豊町字大門田11)

■主催/NPO法人世界劇場会議名古屋(世界劇場会議フォーラム2026実行委員会)

■共催/武豊町、NPO法人武豊文化創造協会(NPOたけとよ)

■問い合わせ/NPO法人世界劇場会議名古屋

TEL:052-253-7556 e-mail:itcn@itc-nagoya.com



詳細はこちら



申込フォーム

表紙 建築の生まれるところ vol.11

ロゴデザイン・表紙デザイン 小林 ミハル (トロロスタジオ)

写真 田島 ナナ
(トロロスタジオ)

建築が生まれるところをテーマに写真撮影をしています。

建築アーカイブズとコミュニティ②

建築アーカイブズに関係するコミュニティには、様々な集団が考えられる。資料の作成者や所有者など、もともと資料群に紐づいているコミュニティもある。一方、活用を通じて広がっていくコミュニティもある。アーカイブズの使用者として一番想定しやすいのは、研究者コミュニティである。建築資料を研究に使用するの、建築史を専門とする人が多いが、資料の内容によっては別の領域の専門家も使用者となることもある。アーカイブズに含まれる資料が建築物の保存修復に必要とされることもある。大江宏アーカイブの場合は、大江が長年教鞭を執っていた法政大学のコミュニティも関心を寄せてくれる。大江建築の見学や関連イベントには建築学科OBOGたちが多く参加し、後輩たちの調査を応援してくれている。そして、実測調査を通じてそのポテンシャルを新たに感じているのが、大江宏が設計した建築物に関わるコミュニティである。

2021年に茨城県公館の調査から始まった大江宏建築の実測調査は、その後小堀哲夫



写真1 原図を基に作成した簡易的な模型に、普連生の思い出の場所をマッピング



写真2 大学院生が制作した二つの模型と、模型台座のワークショップ参加普連生が制作した模型台の模型



左/写真3 1/200 全体模型と台座。テーマは「ながめる台座」。デザインは中学校舎階段の手摺を翻案。



右/写真4 1/50 部分模型と台座。テーマは「ふれる台座」。上から赤い屋根、教室天井のワッフルスラブ、教室床のフローリング、外壁の吹き付け塗装、焼過煉瓦、巾木を、感触にこだわりながら原寸大で再現して積層させた。

研究室により毎年続けられることになり、2025年で5年目となった。2年目は農林省の公邸として設計された三番町共用会議所別館(1956年竣工)、3年目は中高一貫女子校である普連土学園の現・中学校舎(1968年竣工)、4年目は梅若能楽学院(1961年竣工)、5年目はメキシコ大使館(1963年竣工)を調査させてもらった。2年目以降の建築はいずれも大切に維持管理されており、調査を契機として所有者・管理者の方々との交流が続いている。

普連土学園調査の際には、小堀研究室の大学院生たちが普連土生に対してワークショップを行い、一緒に校舎を巡りながら彼女たちの好きな場所や思い出を聞き、重点的に調査する箇所に反映した(写真1)。参加した普連土生たちには、家具から始めて野帳の作成も経験してもらった。その後、調査に基づき小堀研究室が制作した模型を学園に寄贈することになり、模型を展示するための台座制作のワークショップも行った(写真2)。普連土生たちが考えた模型台の案を基にして、実現可能なデザインに落とし込む作業には苦労もあっただろうが、結果としてとてもユニークな台座が二つ完成した(写真3,4)。

調査に際して行った聞き取りからは、学園の過去の教員や多くの卒業生、そして保護者までが、大江宏設計の校舎に対して愛着を持っていることを知ることができた。(注1) 外から傑作と誉めそやされる建築でも、使い手が愛着と共に長く記憶に留めている建築がどれだけあるだろうか。調査した学生たちからは、大江宏がかつて語っていた言葉が予想外にポロッと出てきたりする。言葉で説明せずとも、時を経ても、形がその理念を伝えることが現実でありうるのだと、改めて建築の可能性に気付かされた。本来、建築は時を経ることでその真価を発揮するのかもしれない。

どの大江建築にもそれぞれ所有者・使用者コミュニティがあり、使用者全員が建築をこよなく愛しているわけではない。しかし、どのコミュニティにも、何かしらの関心を寄せてくれる人々がいるのは、大江建築が持つ理念が一定数には確実に伝わっているからだろうか。三番町共用会議所では秋に年に1度の一般公開があり、ここ数年はその際にイベントを企画させてもらっている。普連土生は、梅若能楽学院の調査にも参加してくれた。梅若能楽学院は、梅若家が存続と活用を希望されており、近所でカフェを運営

する若手建築家らが、定期的に見学ツアーを始めている。(注2)メキシコ大使館では、大使館の職員の方々が大使館自身の歴史として、60年前の建設経緯に興味を抱き始めてくれている。

先に建築アーカイブズに関わるコミュニティとして挙げた研究者、アーカイブズ収蔵場所の関係者、建築物に関わる人々は、部分的には交わっているが、普段はお互い関係のないところで動いている。研究者は限られた研究対象にフォーカスしがちであるし、建築物の所有者・使用者は他の建築物にはそんなに興味を持っていないことも多い。しかし、これらの間を繋ぐ回路さえあれば、思いがけない化学反応が起きたりもする。アーカイブズという存在は、このような複数のコミュニティを繋ぐプラットフォームとなる可能性があるのではないか。特定の何かを意図的に繋げようとしなくても、繋がるための媒介であればいい。

そんなことを考えて昨年11月に企画したのが、研究会「大江フェス」だった。大江新太郎・宏に関する研究や活動を行っている方々に発表を行



第1回 大江フェスポスター

なってもらおうという企画で、プロの研究者から研究中の学生まで発表を依頼した。アーカイブズが起点になるわけだから、それなりにテーマの専門性は高くなる。それでも開催してみて、学会のような線引きをしない開かれた場を作ること、社会にとっても意味があることだと感じた。発表テーマは教育哲学を基盤にした普連土学園の分析、大江宏が設計した神武天皇聖蹟碑の空間史、大江父子が関わった建築を含む伊勢神宮研究、大江新太郎作家論、大江宏の庭園デザインの読解、建築家による梅若能楽学院のある地域「中中野」

でのコミュニティ活動と、多彩なものとなった。このようにテーマを無数に見出すことができるのは、新太郎・宏父子の射程の広さゆえだろうが、他の建築家のアーカイブズでも、切り口次第で様々な研究テーマを引き出すことができると思う。

アーカイブズは、欲しいものがなんでも取り出せる魔法の箱ではない。残された資料は作成者本人やアーカイブズ化に関わった人々の取捨選択を経ており、物理的な限界から失われた記録や、記録としての形にならなかった重要な出来事や記憶もあるだろう。資料が残される過程には政治的・社会的状況も影響する。アーカイブズが公共的なものとしてアクセス可能となり、人々の手に届くようになるまでには、複数のバイアス(いい意味でも悪い意味でも)がかかっている。アーカイブズを提供する側にはそうした経緯について十分な情報を与える責務があるし、使用する側はアーカイブズの限界や制約を知る必要がある。

一方、一旦公共性を獲得したアーカイブズは、その公益性を最大限に活かす努力をすれば、全く異なる関心を持つ人々や分野を繋げる可能性にも開かれている。そのためにはアーキビストからの積極的な働きかけも効果を持つのではないかとこのことを、大江フェスの企画運営を通じて感じる事ができた。

アーカイブズが持つ可能性は、時空を超える。非現用の歴史資料だとしても、現代の我々自身のことを考えるために欠くことのできないものが多くある。いや、過去の蓄積を知り、深く理解して初めて、我々自身のことを知り、向かうべき先を考えることができるのではないか。これはデザインに関わる資料でももちろん変わらない。ゼロからカッコイイものを創ることだけが創作なのではない。過去や現在から何を取り出し、

創作に繋げるか。その能力は、全く新しいものを考え出すのとはまた質の違った、重要な創造性だと思う。そのためには過去のことを知り、現在を形作っているものをよく見て理解する必要がある。建築アーカイブズは、そうした創造力／想像力を鍛えるための糧にもなるのではないか。大江宏は「歴史意匠」を一つの言葉として捉えていた。意匠は歴史の「露頭」として「現前している」、と大江は言う。(注3) 歴史と意匠は分かち難く結びついていて、切り離して考えることはできない。アーカイブズを現在の実践として捉えることと、この大江の考え方は、通じているところがあると感ずる。

資料から何を引き出すことができるか。或いは、資料を媒介にして何から何を引き出すことができるかを考える。“education”という言葉の語源の一つに“educere引き出す”という意味があることを考えると、アーカイブズの活用はそれ自体が「教育」とも似ている。

注1. 聞き取りの一部は「〈座談会〉形にならない「愛着」とは何か」『建築ジャーナル』2024年11月号、特集「実測で学ぶ法政大学小堀研究室と4つの大江宏建築」pp.26-27)として掲載。

注2. 梅若能楽堂研究会Instagramアカウント、<https://www.instagram.com/umewakadlab/>

注3. 『大江宏=歴史意匠論』南洋堂、1984年、p.193



藤本 貴子

法政大学
デザイン工学部建築学科

法政大学デザイン工学部建築学科専任講師。磯崎新アトリエ勤務後、2013-2014年、文化庁新進芸術家海外研修員として米国・欧州の建築アーカイブズで研修・調査。2014-2020年、文化庁国立近現代建築資料館勤務。2020-2025年、法政大学デザイン工学部建築学科教務助手。

北京—経済発展の中の商品化

「中国社会は伝言ゲームだ。これからは健康の時代だと政府が言えば、それが津々浦々にすぐに伝わる」

以前中国の友人からこの言葉を聞いた時、公園やまちなかの広場でお揃いのウェアに身を包みダンスに集う仲間たち、まちの一角で二胡を囲んで語らう男性グループ、集会所で麻雀や中国将棋に興じる住民たち(写真1)を思い出し、国家権力に従順とも見える中国の人民の特性、集団の力をあらためて感じた。



写真1 集会所での麻雀・将棋

■ 経済発展の中での商品化住宅

中国の社会や制度の変化は、いつも振幅が大きくスピード感がある。1978年にスタートした改革開放路線による経済発展に伴い、中国の主たる産業は第1次・第2次産業から第3次産業へと急速に移行してきた。その第3次産業の一つが不動産業であり、超高層住宅はその経済活動の中で扱われる有力な駒として建設されてきている。

一方、住宅供給の仕組みも上記に連動する形で進化してきた。中国の住宅は、当初は当時のソ連から導入した技術を用い、供給は単位（勤務先団体）による従業員への建設・分配という社宅制度により行われたが、1980～90年代以降は、政府の強力な支援のもと育ってきた民間デベロッパーによる商品化住宅制度に移行した。(文1) この中で超高層住宅は、高容積率を実現する手段として重要な役割を担っている。



写真2 燕保常营家园（2016竣工）

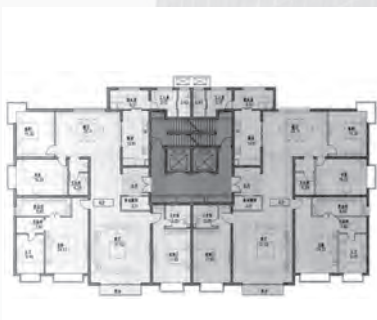


図1 太陽公元（2012竣工）

■ 広大な市街地の中での使い分け

メガシティ北京の住宅地は同心円状に形成されている。中心部は行政機能の中核であり住宅は制限され、その周囲に旧公務員住宅や中低層の民間住宅地、そしてその外周部に民間デベロッパーによる高層高密度のオフィスや超高層住宅がある。これに加え近年は郊外への地下鉄の延伸が進み、この沿線上に郊外ニュータウンの開発が進んでいる。

超高層住宅は上記の外周部や郊外ニュータウンに位置し、建物や塀で囲まれた大規模敷地に規格化された住棟が林立する形態が多い(写真2)。住棟は南面重視のセンターコア型の板状が多く(図1)、階数は20～30階程度である。その階数から



写真3 SOHO現代城商住棟（2001竣工）



写真4 SOHO現代城商住棟スカイガーデン

高層階にスカイガーデンを持つ事例は少ないが、差別化の手段として挑戦的に計画された事例が一部に見られる。SOHO現代城（住商棟）はその一例であり、4～5階ごとに現代アートが置かれたスカイガーデンが設けられている(写真3・4)。

このように北京の超高層住宅は、政府の産業政策を背景に持つ民間事業にとっての利益拡大を目的とした高容積を実現する手段となっている。

(文1) 高井宏之・桐谷万奈人:北京市における1990年代以降の住宅供給計画の特性と変遷に関する研究、都市住宅学(91)、pp.155-162、2015.12

高井 宏之(JIA 愛知)

名城大学
理工学部 建築学科教授



大会から始まる若手建築家ネットワーク

—千葉大会に参加して—

常滑大会から始まった10支部合同企画「注目の若手建築家による建築討論」は、今回の千葉大会で3回目を迎えた。本企画は大会マンスのWeb討論と、本大会でのシンポジウムの2段階構成で開催している。Web企画では2日間にわたり、若手5名とモデレーター1名が登壇した。参加者は延べ180名を数え、登録者(※1グラフ)の60%がJIA会員外であったことは、本会を超えた期待の表れであり、JIAの活動の裾野を広げることに大きく貢献していると感じる。

討論の軸は非常に純粋なもので、「どのような思想や理念に基づいて建築を創造しているのか、自身の宣言に加え、その手段や手法についても発表していただきたい」というものだ。ここから2つのことが見えてくる。1つは、私たち建築家が社会にどのような建築で貢献し

ているかという点だ。そのアプローチは多様であり、登壇者たちは実践を通してその定義を再確認し、伝えてくれている。2つ目は、ローカルリティである。周知の通り、JIAの支部は北の北海道から南の沖縄まで全国に及ぶ。環境や文化の多彩さに加え、経済規模や街のスケール感など、彼らを取り巻く環境の違いが浮き彫りになる。建築家の職能と職域という視点で討論を振り返ると、地域素材の流通やマネジメントへの関与、さらには農業への挑戦など活動は多岐にわたり、建築の領域にとどまらない姿が印象的であった。

本大会のシンポジウムでは、登壇者が初めて対面(リアル)で議論することになった。当日は「風景」をテーマに議論が白熱した。風景とは個々人の中にある原風景や価値観のようなものであり、それを個々の内側で作り上

げていけることが語られた。終了後にはLINEグループが発足したと聞く。過去の大会でも同様のグループが生まれており、情報の共有と刺激が行き来しているようだ。そこには会員でない若手も含まれており、今後、私たちの仲間になってくれることを期待している。

最後に、この企画を10年は続けようと、発案者である前九州支部長の松山将勝氏と言葉を交わしている。実現すれば約100名の若手ネットワークが構築されることになる。JIAの中に若手の居場所をつくるべく、引き続き活動していくので、ぜひご支援をお願いしたい。



浅井 裕雄 (JIA愛知)
JIA東海支部長

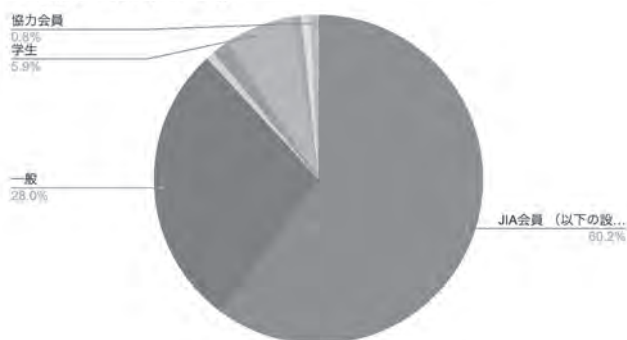


千葉大会 会場



千葉大会 前夜祭

「所属」のカウント数 ※1 グラフ



千葉大会 参加者

WEBサイトについて

今年は渡辺隆建築設計事務所 19 年目の年、いつも通り淡々とやっていこうと思っているところですが、実は大きく変化したことが一つあります。18 年間ずっと同じデザインであった web サイトを一新しました。



写真は事務所に飾っているコレクション。「群で見せる」はこんなイメージ。

特に力を入れたのは作品のページです。画像で見るかリストで見るかを選択でき、発注機関や規模や竣工年などでの絞り込み機能も充実させました。

事務所を開設した当初は自邸しか実績がなく、編み出した手法は年賀状や名刺などのグラフィックやスタディ模型などを建築と

フラットに時系列も崩して並べて、「群」として見せるというものでした（私の日常や興味を綴ったブログすら同じウエイトのつもりで）。

はじめの 7・8 年、この手法は、世間の皆さんに認知していただくフェーズとして

ジャストフィットしていたのですが、徐々に（作品数が増えたにもかかわらずランダムに群として見せるというのは本当に見づらい（笑））・・・作品群と同じウエイトのつもりで毎日書いていたブログの頻度も落ちていき、ここ数年は建築作品の更新もできていませんでした。この状態でお仕事を頂いていたことがもう奇跡ですね（笑）。

ということで、完成した web サイトは、作品集だけでなくブログや音楽紹介などのコンテンツも今まで以上に充実していますのでお暇なときに楽しんで見ていただければ嬉しいです。



<https://www.tawatana.be/>



渡辺 隆 (JIA静岡)

渡辺隆建築設計事務所

稜線で思考を研ぐ

毎年、仲間数名と穂高に登ることが、私のささやかな恒例行事となっている。肩書きも立場も関係なく、山の上では誰もが“ただの登山者”に戻る。近々に登ったのは、西穂高岳(2,909m)と奥穂高岳(3,190m)だ。西穂高へと向かう岩稜、その先に奥穂高へ



伸びる稜線では、慎重な一歩と他愛もない冗談が交互に行き交う。不思議に解放感のある時間である。行程の厳しさは十分承知しているのに、「またあの稜線を歩きたい」と思わされるところに、この山域ならではの魅力がある。

この山行では、携帯電話の扱いにも一つだけ決め事を設けている。実際には場所によっては電波が入り、画面を開けばメールも確認できる。しかし、登山口に立った時点で電源を落とし、その後は一切触れないことをルールとしている。そうすると、思考の対象は足元の岩、変わりゆく天候、仲間の歩調に自然と限定され、都市での生活でまわりついていた雑念が、衣服の埃を払うように静かに剥がれ落ちていく。

興味深いのは、その研ぎ澄まされた時間のなかで、建築のアイデアがふいに立ち上がってくることである。共用動線の抜けのつくり方や、外構にどれだけ余白を残すべ



きかといった感覚的なテーマが、稜線の風や雲の動きとともに輪郭を帯びてくる。日常では締め切りやメッセージの応酬に埋もれてしまう発想が、敢えて電源を落としたその静けさの中でようやく浮上してくるのである。こうして毎年の穂高登山は、単なる趣味を超え、思考をリセットし、次の設計へとつながるヒントを受け取るための、ささやかな儀式になっている。



犬飼 高嘉 (JIA愛知)

伊藤建築設計事務所

2025年11月25日

(公社)日本建築家協会東海支部選挙管理委員会

委員長:谷村 茂

委員:清 峰芳(静岡)、見寺 昭彦(愛知)

大瀧 繁巳(岐阜)、高橋 徹(三重)

2026年度 東海支部 役員選挙についての報告

2026年度東海支部役員選挙について、11月18日に立候補を締め切り、11月25日に第2回選挙管理委員会を開催しました。立候補者は支部役員選出規約に定める定数と同数であり、立候補届出書の記載も適正かつ被選挙人の資格を有することが確認されましたので、立候補者を当選人として確認しました。ここにご報告申し上げます。

当選人は下記の 通りです。

【幹事】

●静岡地域会

大橋 康孝 ((株)高橋茂弥建築設計事務所) ○

高島ゆかり (一級建築士事務所アトリエ結)

●愛知地域会

川本 直義 ((株)伊藤建築設計事務所)

関口 啓介 (人建築事務所)

笹野 直之 ((有)笹野空間設計)

中澤 賢一 ((有)堀内建築研究所)

間瀬 高歩 ((株)地域計画建築研究所) ○

●岐阜地域会

山田 浩史 (ヒロプランニング) ○

澤 秀俊 (澤秀俊設計環境/SAWADEE)

●三重地域会

久安 典之 (久安典之建築研究所) ○

伊藤 達也 (一級建築士事務所設計工房NEXT)

【監査】

水野 豊秋 ((株)ヤスウラ設計) ○

矢田 義典 ((有)矢田義典建築設計事務所)

注:敬称略、○印は再任

2025年11月18日

(公社)日本建築家協会東海支部愛知地域会選挙管理委員会

委員長:生津 康広

委員:上原 徹也、金山 美登利、神谷 勇雄、寺田 智之

2026年度 東海支部愛知地域会 役員選挙についての報告

2026年度東海支部愛知地域会役員選挙について、11月14日に立候補を締め切り、11月17日に第2回選挙管理委員会を開催しました。立候補者は会長・副会長候補(支部幹事兼任)5名と、監査2名の定数と同数であり、立候補届け出書の記載も適正かつ被選挙人の資格を有することが確認されましたので、立候補者を当選人として確認しました。ここにご報告申し上げます。

当選人は下記の 通りです。

【地域会長・副会長候補】(支部幹事兼任)

川本 直義 ((株)伊藤建築設計事務所)

笹野 直之 ((有)笹野空間設計)

関口 啓介 (人建築事務所)

中澤 賢一 ((有)堀内建築研究所)

間瀬 高歩 ((株)地域計画建築研究所) ○

【地域会監査】

石田 壽 ((株)中建設計)

吉元 学 ((株)ワーク○キューブ) ○

注:敬称略、50 音順、○印は再任



普門寺仁王門から正面参道を辿る



ひっそり佇む普門寺弁天堂 (旧龍神宮)



普門寺本堂と大師堂が山懐に連なる



豊橋市郊外の山懐深く、奈良時代 神亀4 (727) 年に行基開山と伝わる古刹・船形山普門寺は静かに息づく。中世の戦火消失から中興され、平安時代後期の木造・国重要文化財4件を今に残すほか、趣深い建造物も多見される。

今春 新規登録された境内の登録有形文化財 (建造物) 6 件を軸に、折から「もみじ寺」真骨頂の心と境内巡りから略報告する。

口元の仁王門は江戸中期・木造平屋・銅板葺、厳つい阿吽の対称軸で正面参道に誘う。遥か正面の鐘楼門は宝永4 (1707) 年・木造2階・銅板葺、威風堂々と客殿へ迎え入れる。途上傍らに密やかに佇む十王堂は嘉永5

(1852) 年・木造平屋・瓦葺、質素直截の伸びやかさが好感度。

一般参道正面の客殿から左手・谷筋を更に上ると、山裾の樹林に抱かれ軒を連ねる荘厳な、本堂：元禄6 (1693) 年・木造平屋・銅板葺、と大師堂：嘉永7 (1854) 年・木造平屋・銅板葺の懐に心安らぐ。やや離れ物静かに覆屋内の小社 弁天堂 (旧龍神宮)：正徳4 (1714) 年 (以降2度移築)・木造平屋・こけら葺 が好趣を漂わす。

多件併掲の駆け足発信となり、各建造物の細部の魅力紹介が手薄になったことは少々心残りですが…

【概要】

所在地：愛知県豊橋市雲谷町字ナベ山下7
所有者：宗教法人 普門寺 登録有形文化財：建造物
登録年月日：令和7 (2025) 年8月6日
登録基準：造形の規範となっているもの
(*のみ、国土の歴史的景観に寄与しているもの)

登録番号

・普門寺本堂：23-0610 ・普門寺大師堂：23-0611
・普門寺弁天堂 (旧龍神宮)：23-0612
・普門寺十王堂 *：23-0613 ・普門寺鐘楼門：23-0614
・普門寺仁王門：23-0615

アクセス：豊橋市街東端部に併走する JR 東海道線・国道1号線を岩屋観音下で北に分岐、県道3号豊橋湖西線「立岩街道」を一路東進、雲谷 or 立岩脇セブンイレブン信号から北側一帯に連なる山懐に進入。幾つかの標的を経て普門寺仁王門前に至る。

鈴木 利明 (JIA愛知)

デザインズキ



編集後記

●本号を通して感じたのは、建築を次代へつなぐ取り組みの拡がり、と奥行きでした。

大江建築の実測

調査では、図面や写真だけでなく、使ってきた人の思い出や手入れの工夫が次々に集まり、学生と模型を製作する作業で建物への愛着が深められていました。若手建築家ネットワークの企画も同様で、Web討論と千葉大会の対面議論を経てLINEグループが動き出したとのこと。さらに、事務所のWEBサイト刷新で作品を「群」として見せ直す試みや、登山に際して携帯の電源を落として思考を整える話も、日常の仕事を少し外にひらくヒントでした。建築作品は竣工しただけでは続きません。語り合い、記録し、次へ渡す。名駅・栄の再編、改修需要、脱炭素の波が押し寄せる東

海でこそ、この積み重ねを大切にしたいと思います。今日の記録が誰かの助けになります。支部の紙面と集いが、その受け渡しの場になれば幸いです。(塩田 哲也)

●高井さんの北京の高層住宅に関する論考には、北京で生活していた頃によく訪れていたビルが登場しており、当時の熱狂を思い出した。現地の人たちとはSNSという細い糸で繋がっているが、若者の失業率が増加し不動産市場に問題が噴出する一方で、株価は堅調なのだという。「分断」という言葉では表現できない説明不能な現象が世界中で起こっている。

藤本さんの連載では、創造性からは縁のない存在と考えられがちなアーカイブズの仕事、その実創造を支えており、しかもそれ自体が十分に創造的な行為であるという主張に感銘を受けた。

Architect編集も残り半年ですが、これまで皆様の寄稿に助けられてきました。ラストスパートを頑張りますので宜しくお願いします！(東福 大輔)

ARCHITECT

第449号

発行日 2026.2.1 (毎月1回発行)

発行責任者 浅井裕雄

編集責任者 東福大輔

編集 東海支部会報委員会

愛知地域会広報委員会

株式会社イヅミ内

ARCHITECT 編集部

岡崎市明大寺町荒井10番地

TEL (0564) 21-2657 FAX 26-1792

発行所 (公社) 日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052) 263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

http : //www.jia-tokai.org/

第57回中部建築賞の入賞・入選・特別賞作品決定

中部9県の建築関係団体で構成する中部建築賞協議会は、「第57回中部建築賞」の受賞作品を発表した。今回は、応募数一般部門A19点、一般部門B35点、住宅部門33点の計87点の応募作品の中から下記の20作品が受賞した。＊表彰作品の概要は次のとおり ①所在地 ②規模 ③建築主 ④設計者 ⑤施工者（敬称略）

一般部門A（入賞）



「くらすわの森」建設プロジェクト

①長野県駒ヶ根市 ②鉄筋コンクリート造 地上1階、地下1階 3,649.10㎡
③兼営酒製造 ④ヤマウー一級建築士事務所 丹青社 ⑤ヤマウー



愛知学院大学 末盛キャンパス 歯学部臨床教育研究棟

①愛知県名古屋市中区 ②鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上6階 地下1階 塔屋1階 8,898.74㎡ ③学校法人愛知学院 ④久米設計 ⑤熊谷組



NGK Collaboration Square DIVERS

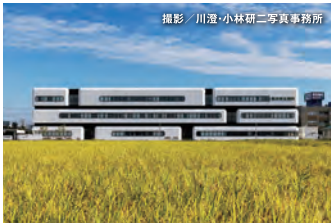
①愛知県名古屋市中区 ②鉄骨造 地上3階4,415.84 ③日本ガイシ
④日建設計一級建築士事務所 ⑤清水建設



りゅうでんオフィス・ハウス

①岐阜県岐阜市 ②オフィス棟・木造一部鉄骨造、ハウス棟・木造 地上2階 2,700.49㎡ ③りゅうでん ④大建設設計 ⑤TSUCHIYA

一般部門A（入選）



福井厚生病院

①福井県福井市 ②鉄筋コンクリート造 地上3階 塔屋1階 126,477.59㎡
③医療法人厚生会福井厚生病院 ④久米設計 ⑤大成建設



AND PLUS 'SHARE' OFFICE+COFFEE

①愛知県名古屋市中区 ②鉄筋コンクリート造+木造 地上1階254.79㎡
③エイコーHD ④無有建築工房 ⑤千田工務店



KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE

①岐阜県各務原市 ②木造 地上2階 980.12㎡ ③各務原学びの森
④飛騨五木 5boc architectS ⑤井上工務店



龍泉寺本堂

①静岡県浜松市 ②木造 地上1階 290.31㎡ ③龍泉寺 ④河原泰建築研究室 ⑤アイテケン

一般部門B（入選）



豊橋市立つつじが丘保育園

①愛知県豊橋市 ②木造 地上2階 907.16㎡ ③豊橋市 ④藤川廣設計
(建築計画提案者) 名古屋工業大学大学院 ⑤青山建設 ⑥影山電機商会
三河設備工業



ニシヤマナガイヤ+未完美術館+駄菓子屋 水都軒+コトづくり研究所

①愛知県名古屋市中区 ②鉄筋コンクリート造、木造、鉄骨造 地上2階 365.99㎡ ③ニシヤマナガイヤ管理・未完美術館館長 駄菓子屋水都軒店主
コトづくり研究所 ④植村康平建築設計事務所 ⑤山女学園大学 ⑥誠和建設



響愛アートスタジオ

①愛知県一宮市 ②木造 地上1階119.20㎡ ③響愛学園 ④大建met
⑤アイテック



東横山水力発電所

①岐阜県揖斐郡揖斐川町 ③レンガ造 地上3階 地下2階 1,855㎡
③イビデン ④熊谷組中部一級建築士事務所 ⑤熊谷組

住宅部門（入賞）



Grove Strolling Corridor

①長野県北佐久郡 ②木造 地上2階 371.15㎡ ④and to建築設計事務所
⑤北野建設



House&Office SH 在と材と財と庫

①岐阜県各務原市 ②木造 地上2階 68.73㎡ ④1-1 Architects
一級建築士事務所 ⑤平田建築



柔らかな間合い

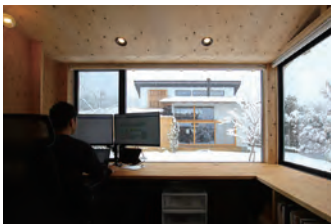
①愛知県丹羽郡 ②木造 地上1階 (新築分)49.58㎡ (増築分) 24.84㎡
④ミヤタ建築事務所 ⑤ミヤタ建築事務所



南松山の住居

①愛知県豊橋市 ②木造 地上2階 148.8㎡ ④伊藤啓輔建築設計事務所
⑤HDL

住宅部門（入選）



文殊の家

①岐阜県本巣市 ②木造 地上2階 172.57㎡ ④GA設計事務所
⑤松久建築 リビングデザイン



連環の家

①岐阜県各務原市 ②木造 地上2階 125.68㎡
④飛騨五木 5boc architectS ⑤井上工務店



岐阜鏡島の住宅

①岐阜県岐阜市 ②木造 地上2階 151.65㎡ ④伊藤雄建築設計事務所
⑤稲屋



BIOCHAR

①静岡県浜松市 ②鉄骨造 地上2階 338.72㎡ ④ASEI建築設計事務所
⑤加納工務店



◀受賞作品をウェブサイトでご覧いただけます
<https://www.tbkc.jp/57arc.html>

三興商事株式会社

いつも心に
ありがとう

www.35s.jp

本社・静岡営業所 〒422-8041 静岡市駿河区中田 1-5-3
TEL 054(283)1181 / FAX 054(284)0751

沼津営業所 〒410-0011 沼津市岡宮 948-9
TEL 055(926)1181 / FAX 055(923)2900

浜松営業所 〒435-0013 浜松市中央区天竜川町 1036
TEL 053(422)1181 / FAX 053(422)0560

横浜営業所 〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-12-2,6F
TEL 045(577)4835 / FAX 045(577)4635

さいたま営業所 〒331-0814 さいたま市北区東大成町 2-263-4,5F
TEL 048(669)1181 / FAX 048(669)1182

名古屋営業所 〒464-0850 名古屋市千種区今池 4-6-18,5F
TEL 052(858)1081 / FAX 052(858)1082

豊橋営業所 〒440-0851 豊橋市前田南町 1-5-14,2F,2B 号
TEL 0532(55)1181 / FAX 0532(55)1183

防水で
安全と安心を
次のステージへ。

三和シャッター

WATER GUARD

三和の防水商品

詳しくはこちら

三和シャッター工業株式会社 静岡市場開発課
静岡 054-262-0111 沼津 055-923-2522 浜松 053-422-7500

建設という
魔法を信じて

杭工事・地盤改良工事 外構工事 外壁工事
タイル工事などの各種工事 資材販売

伊東営業所	伊東市荻578-216	TEL 0557-45-2245
伊豆南営業所	下田市西本郷1-7-10	TEL 0558-22-3655
熱海営業所	熱海市熱海1993	TEL 0557-82-1244
伊豆中央営業所	伊豆の国市守木807-3	TEL 0558-76-3114
御殿場営業所	御殿場市かまど430	TEL 0550-83-1306
静岡営業所	静岡市駿河区西島700-1	TEL 054-284-3461
浜松営業所	浜松市中央区下石田町925	TEL 053-422-3636

株式会社 野村商店

静岡県伊東市和田1-9-16
https://nomuragroup.com/ 0557-35-5010 @nomura_u35

エントランスの
空間創りを提案する。

自 NABCO 動

NABCO ナブコシステム株式会社

静岡支店: 静岡県静岡市葵区池ヶ谷東4-8
TEL.054-246-1576